北九州地区　小竹町立小竹西小学校
体と心を鍛えて「めざせ全校無遅刻・無欠席」プロジェクト

取組概要

「めざせ全校無遅刻・無欠席」プロジェクトとして、「持久走大会」や「縦割り班大縄跳び」等の心と体を鍛える集団活動を取り入れました。さらに、皆勤賞の授与によって褒められる機会を増やし自己肯定感を高め、登校意欲を高めることができました。

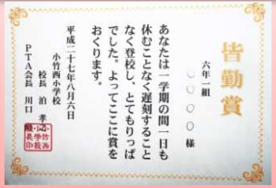
1　学校の課題を探り

○　全校児童６学級（６９人）
○　職員数　１６名
○　年間１５日以上の欠席、２０日以上の遅刻があった児童数について、過去２年間の状況は右の表のとおりです。個々の原因は様々ですが、学校に行きたいという登校意欲と時間通りに登校しようという自立心が低い傾向にあることが大きな要因の一つであると考えられ、その改善を最重要課題として捉えました。

	平成25年度	平成26年度
15日以上欠席した児童数	2／85人	2／74人
20日以上遅刻した児童数	6／85人	5／74人

2　目標を立て

☆　全校の児童が無遅刻・無欠席となる年間目標日数を20日に設定し、児童や地域や家庭に周知します。
☆　「持久走大会」や「縦割り班大縄跳び」の取組について地域や家庭に周知し連携を図ります。
☆　皆勤賞の授与等をPTAと連携し、褒めることによって自己肯定感や登校意欲の向上にむけた支援体制を構築します。



皆勤賞

3　鍛えて、ほめてみると

【目標設定】　個人と集団の目標値の設定

○　親子で話し合い、目標とする就寝・起床時間を設定しました。
○　「持久走」や「大縄跳び」では、目標値を事前に決めました。

【挑む】

（1）　支え合う集団づくりとしての「縦割り班大縄跳び」に挑む場の設定

縦割り班大縄跳び集会の様子

この活動のねらいを「異学年で協力したり、助け合ったりする活動を通して、心のふれあいや支え合うことの大切さを学ばせ仲間意識を高めていく」こととしました。

全校児童を5つの縦割り班に分け、学期毎に記録会を行いました。練習は、学期毎に4回程度、掃除の時間を活用して行いました。

当初、大縄跳びを怖がっていた１年生も、上級生のサポートや励ましの言葉で自信を持って跳ぶことができるようになってきました。

	1班	2班	3班	4班	5班
1回目	68回	85回	75回	109回	101回
2回目	110回	92回	93回	155回	98回
3回目	122回	155回	150回	206回	92回

左の表は、各縦割り班が大縄を跳んだ回数を表したものです。

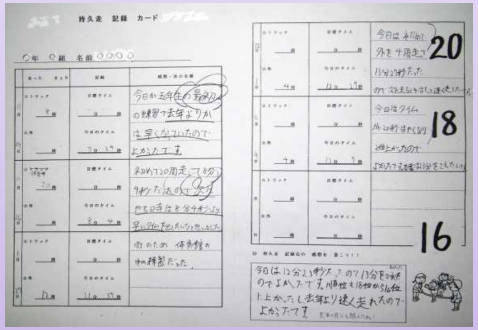
2倍近く回数を増やした班もあり、成就感を持たせることができました。何より集団の一員であるという自覚を持たせることができたことが、登校意欲にもつながったと思います。

（2）　自己の能力を最大限に伸ばす「持久走大会」に挑む場の設定

3年生以上の学年で目標タイムを持たせ、タイム別にスタートする持久走の指導を共通実践しました。

具体的には、持久走の練習の際に、走った距離、目標タイム、実際のタイム、感想や次時の目標を毎回記録させました。この持久走記録カードの活用が、自分の記録にチャレンジしていく態度を育てることに効果的でした。

また、実走タイムを参考に、中学年では2グループ、高学年では3グループに分け、順次スタートすることとし、全ての児童の意欲が低下しないように配慮しました。


持久走記録カード

持久走大会の様子

【ほめる】
（3）　ＰＴＡと連携した賞賛の場を設定

各学期の終業式には、皆勤賞の児童を全校の前で発表し、児童の頑張りをみんなで賞賛するようにしました。

PTA役員に賞状を授与していただく場を設定し、親と学校が連携して子育てをすることの大切さを、児童はもちろんのこと、保護者にも理解していただきました。

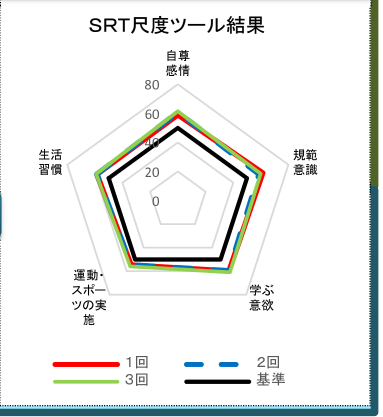
学期毎にリセットすることで、「次の学期こそ頑張るぞ」という意欲を持たせることができました。

特に低学年の児童もこの様子を見て、「わたしも挑戦したい」という感想が聞かれ、低学年の児童の自立心を育てることにつながりました。

ＰＴＡ役員による皆勤賞授与の様子

4　こんな成果があった！

○　ＳＲＴ調査結果から、自尊感情が2ポイント上がりました。
○　取組の結果、平成26年度に15日以上欠席した2人と20日以上遅刻した5人の児童は、全員、保護者との連携により改善が図られました。また、本年度、新たに欠席・遅刻がちであった2人も、3学期以降改善傾向にあります。



5　ココがポイント！

①　自立心を育てるには褒めることが大切！
教師や保護者が褒めることを増やせば、自尊感情や自立心の向上につながりました。

②　異学年による仲間意識を育てることが効果的！
支えられているという雰囲気が、児童の仲間意識を高め、不登校傾向の児童数の減少につながりました。